

令和4年度 学校教育自己診断結果分析

1. 学習指導

生徒：学校に対する肯定的回答は76%となり、前年度より1ポイント向上し、授業については「わかりやすく楽しい」が66%と昨年度同様、教科指導の対応については、「丁寧に対応してくれる」74%と5ポイント減少し、ICT活用87%で1ポイント向上している。

【分析】

個別の生徒への対応や教科指導を丁寧に行っているが、学校に対する肯定的回答が1ポイントの向上に留まっている。次年度から各HR教室に電子黒板を搭載したプロジェクターを配備し、ICT機器の充実を図り、授業については生徒にとってわかりやすく楽しい肯定的回答が向上するよう授業改善に努める。

2. 生徒指導

生徒：多くの生徒が社会へと移行していく中で、教育活動全体を通じて、「挨拶」に重点を置きながら指導している。学校生活内で、「挨拶ができています」に関する項目は84%と昨年度より1ポイント減少している。

【分析】

日々の校門での「挨拶運動」を行っており、一定の効果は得られているが、様々な機会を通じて、さらに挨拶の啓発に努めていく。

3. 防災教育

生徒：地震や火災などへの行動対応については、肯定的回答が66%と、昨年度より6ポイント減少。

【分析】

コロナ禍により、放送で保健指導部が中心に避難経路の確認等を行ったが、今後集合型で実施していき、生徒の防災意識の向上を図っていく。

4. 人権教育、生徒相談体制

生徒：いじめに対する相談体制については、肯定的回答が78%となり、昨年度より2ポイント向上している。また、「悩み相談に応じてくれる先生が多い」については、70%で昨年度より4ポイント減少している。

【分析】

いじめに関するアンケート調査は年間3回実施している。今後、さらに外部講師を招いて、教職員研修等を実施し支援体制の充実・強化に努める。

5. キャリア教育

生徒：進路指導體制やガイダンス関係について肯定的回答は、81%となり昨年度と同様の結果となった。

【分析】

今後、さらに肯定的回答が向上するように、1年生からのガイダンス機能の強化と企業説明会等の進路行事の充実に努めていく。

6. ICT 機器の活用

生徒：授業での ICT 機器の活用について肯定的回答が 86%となり昨年度と同様の結果となった。

【分析】

黒板をホワイトボードへと変更し、ICT 機器の活用が容易になったと考えられるが、次年度は肯定的回答が向上するように、各 HR 教室に電子黒板を搭載したプロジェクターを配備し、ICT 機器の充実を図り授業改善に努めていく。

7. 保護者の学校に対する学校意識

保護者：「学校満足度」の肯定的回答が 94%で 1 ポイント向上し、また「教員信頼度」の肯定的回答は 85%で 7 ポイント向上した。「情報提供」の肯定的回答は 93%で 3 ポイント向上した。

【分析】

昨年度より、「教員信頼度」が 7 ポイント向上している。教員が生徒に寄り添い、丁寧に対応し、保護者との連携を密に取っていることから、保護者からの信頼が高くなっていると考えられる。

「情報提供」については、3 ポイント向上していることから、連絡網での情報提供が定着してきていると考えられる。

「学校参画」については、肯定的回答が 14 ポイント向上している。このことは、コロナ禍による学校行事等の制限が緩和されたことにより、以前よりも保護者が P T A の行事等に参加しやすくなったことが考えられる。